

令和 7 年 9 月

(第 1 回)

京 都 府 教 育 委 員 会 会 議 録

1	開 会	令和7年9月8日	午後1時15分
	閉 会	令和7年9月8日	午後2時00分

2 出席委員等

前 川 教 育 長 小 畑 委 員 安 岡 委 員 藤 本 委 員

鈴 鹿 委 員 植 木 委 員

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

大 路 教 育 次 長

山 下 教 育 監

仲 井 管 理 部 長

相 馬 指 導 部 長

南 総 務 企 画 課 長

三 矢 学 校 教 育 課 長

井 上 保 健 体 育 課 長

田 中 社 会 教 育 課 長

山 本 総 合 教 育 セ ン タ ー 所 長

瀬 津 総 務 企 画 課 主 幹 兼 係 長

中 村 総 務 企 画 課 主 事

5 議事の概要

(1) 開会

教育長が開会を宣言

(2) 前会議録の承認

8月分の会議録について、全出席委員異議なく、これを承認した。

(3) 報告事項

ア 令和7年度全国高等学校総合体育大会優勝等について

【井上保健体育課長の報告】

○ 今年度の大会は、中国地方を中心に開催された。

大会結果については、団体競技では陸上競技の学校対抗で洛南高校が優勝、個人競技では府立学校を含む17種目で優勝した。

入賞数は団体・個人併せて、のべ103種目を数え、昨年度の91種目を大きく超えた。過去10年で2番目の数字である。定時制通信制課程の全国大会では府立清明高校のバスケットボールが3位となるなど、のべ4種目で入賞を果たした。入賞した選手の中に「京都きつず」修了生がいる。2位に入賞したフェンシングの乙訓高・清水選手を含む、フェンシングの乙訓高勢の中には、団体・個人に5名の「京都きつず」が入賞を果たした。また、6位に入賞したカヌーの綾部高・橘選手も京都きつずである。

各選手、高校進学後も競技を続け、大活躍している。

なお、全国高校総体における入賞者の推移は、資料のとおりである。

これら入賞の背景にもある、京都府競技力向上対策本部事業の「京のメダリスト創生事業」と「京都きつず」の2事業について説明する。

「京のメダリスト創生事業」は、目的にあるように、世界大会でメダル獲得の可能性のある選手を対象に指定して、強化活動の経費を補助している。

なお、本年度は66名の選手を指定しており、その内、49名が高校生であり、その49名の中から、今回26名が入賞を果たしている状況である。

続いて、「京都きつず」の説明をする。「タレント発掘・育成事業」に位置付け、京の子どもダイヤモンドプロジェクトの概要になる。

「ダイヤモンドプロジェクト」という名前のとおり、ダイヤモンドの原石を見つけ、トップアスリートとして磨き上げていく。そのような思いを込めて展開している事業である。具体的には、小学校3年生の児童を対象に、原石となる適性を見つけるオーディションを実施し、発掘された選手を6年間にわたって育成する事業となる。

育成プログラムには、各競技独自の専門性を磨く「専門プログラム」のほか、全員を対象とした共通プログラムとして、「様々な体を動かす活動」や「世界で活躍するための語学力のプログラム」、また「世界で物怖じしないコミュニケーション能力など知性を磨くプログラム」なども取り入れており、小学校4年生から中学校3年生までの6年間、一貫した指導理念のもと育成をしている。

今日、明日といった成果は見えにくいだが、時間をかけ、長期にわたる一貫した

育成の成果が、着実に現れてきているものと考えている。滋賀県での国民スポーツ大会が開催される。昨年は都道府県対抗となる総合成績で、京都府は総合7位という素晴らしい成績を残した。全国高校総体で優勝、入賞した選手も出場するため、好成績が期待できる。府教育委員会としては、引き続きジュニアからの一貫指導・選手育成に努め、全国大会や国際大会での生徒の活躍を目指していく。

【質疑応答】

○ 安岡委員

「京都きっず ダイヤモンドプロジェクト」と「京のメダリスト創成事業」の位置付けを改めて教えていただきたい。

○ 井上保健体育課長

「京都きっず ダイヤモンドプロジェクト」は、小学校4年生から中学3年生までの育成プログラムで、指定競技の原石を見つける事業である。また、「京のメダリスト創成事業」は、指定した選手へメダリストとなるために特別なプログラムを中学3年生から大学2年生までの間実施し、サポートするものである。

○ 前川教育長

「京都きっず ダイヤモンドプロジェクト」は、経験の有無に関わらずやりたいという子どもを公募し、原石を発掘する事業で、6年間プログラムを実施するものである。

また、「京のメダリスト創成事業」は、実際に世界で活躍出来そうな選手を、選抜し指定するもので、ダイヤモンドプロジェクト出身者も含めて、各競技団体から推薦された選手を、当方が指定しサポートしていくものである。

○ 藤本委員

全国的に見て、京都の事業取組みは早い方か。

○ 井上保健体育課長

全国的に見ても早くから手を挙げて取り組んでいる。

○ 鈴鹿委員

同事業に選ばれるまではどのような流れか。

○ 井上保健体育課長

「京都きっず ダイヤモンドプロジェクト」は、公募としており、毎年、小学3年生を対象としており、約150～200人程度応募があり、その中から、12名を選抜する。

競技経験者だけでなく、初めてその競技をする子ども達も含めて、将来伸びる可能性がある子どもを選抜している。

○ 安岡委員

過去に乙訓高等学校の体育館で、フェンシングの指導をしているのを見たことがある。その際、施設の充実について聞いたことがあるが、その後はどうか。

○ 井上保健体育課長

顕著な成果は出せていないので心苦しいが、今後も工夫しながら取り組んでいく。

○ 小畑委員

今回紹介された事業は、一つの競技種目を通じて、人格育成にも着目しており、グローバル人材の育成にも寄与していると思う。

メダルを取れるのは一部だと思うが、そのすそ野の育成になる良き事業だと感じる。

イ 教職員免許状の取上げに係る聴聞について【非公開】

(※42号議案と一括で説明)

(4) 議決事項

ア 第39号議案 京都府るり溪少年自然の家臨時休館について

【田中社会教育課長】

○ 京都府立るり溪少年自然の家の臨時休館について説明する。

るり溪少年自然の家は、自然の中で、集団宿泊生活を通じて心身ともに健全な少年の育成を図るため、南丹市園部町に設置しており、指定管理者制度により運営している。

今回は、京都府立少年自然の家条例施行規則第1条第2項の規定による指定管理者からの申請に基づき、臨時休館の承認をお願いするものである。

るり溪少年自然の家については、昨年度も令和6年12月から令和7年3月までの臨時休館の御承認をいただき、浴室や暖房設備に必要なボイラー等の更新工事を実施した。

しかし、工事に必要な機器の納入が大幅に遅延することが判明したことから工事の契約期間を、当初、令和6年10月10日から令和7年3月31日までとしていたところ、令和8年3月13日までの延長となった。

令和7年3月までは施工可能な部分の工事を実施し、令和7年4月1日からは施設利用ができる状態にし、現在は通常どおり施設利用できている。

今後、施設の閑散期に工事を再開するため、令和7年12月1日から令和8年2月28日にかけて、再び施設を臨時休館しようとするもの。

【質疑応答】

○ 藤本委員

利用を考えている方や団体もあると思われるので、利用者、団体に対する

説明を丁寧にすることが大切である。

○ 植木委員

施設利用を予定している人へ、できるだけ早く周知が必要である。

[原案どおり可決]

- イ 第40号議案 令和7年9月府議会定例会の議決を経るべき議案に対する意見について 【非公開】
- ウ 第41号議案 京都府公立学校退職教職員表彰の被表彰者について 【非公開】
- エ 第42号議案 教育職員免許状の取上げ処分について 【非公開】

(5) その他

ア 公開しないこととする議決について

(京都府教育委員会委員会会議規則第15条第1項第1号及び4号)

議決事項について、全出席委員異議なく、公開しないこととすることを議決

(6) 閉会

教育長が閉会を宣告